

京都市小学校教科書選定委員会 答申

特別の教科 道徳について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 発達段階に即した学習のねらい・目標や適切な振り返り活動の設定等、児童が道徳的な成長を実感でき、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を身に付けられるよう工夫・配慮がされていること。
- 2 道徳的価値について広い視野から多面的・多角的に考えられるよう、児童が主体的・対話的に学習に取り組むための言語活動や問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等の多様な指導方法が工夫され、「考え、議論する道徳」の学習活動が展開しやすいこと。
- 3 教材に応じて、読み物資料に加え、多様で適切な挿絵や写真等が豊富に用いられるとともに、児童が特定の見方や考え方に偏ることなく、多様な見方や考え方ができるよう工夫・配慮されていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。
- 4 生命の尊厳、社会参画、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題等を題材とし、児童が物事に対して多様な考えをもつことができたり、感動を覚えたりするよう工夫・配慮されていること。
- 5 教材の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から、他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また、他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- 6 基本的人権の尊重の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、よりよく生きる喜びや勇気を与えられるよう工夫・配慮されていること。
- 7 表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

特別の教科 道徳

調査研究の結果の概要

■東京書籍「新しい道徳」

各教材末の「考えよう」で提示される発問は、児童の問題意識を喚起し、主体的に自己を見つめ、考えを深める学びを促している。また、各学年巻末には「学習の記録」として、感じたことや考えたこと、生活に生かしたいことを書くページが設けられるなど、工夫されている。

2年生以上の巻頭に、「ちょっと話し合ってみよう！」として、対話の中で活用できる文言例が掲載されるとともに、各教材の「つながる広がる」では、話し合い活動が提示されるなど、言語活動を促す工夫がされている。また、各学年巻末に、「考えるためのツール」として、自分の考えを可視化し、話し合い活動を促すツールが複数例示されるとともに、4年生以上には切り取って何度も活用できる心情円が用意されており、道徳的価値について多面的・多角的に考える手立てとして優れている。

他教科等や普段の生活と学習したことを関連付けて考えを深めていけるよう、コラム「つながる広がる」では、具体的なイラストや資料が掲載され、多様な見方・考え方ができる工夫がなされている。

現代的な課題である、いじめ問題や情報モラル等を重点的な課題として全学年で扱い、コラムも充実させている。特にいじめ問題については、直接的教材と間接的教材を組み合わせたユニットの形で取り入れたり、各教材の「つながる広がる」において、子どもの権利条約やいじめ防止対策推進法を紹介したりするなど、多様な視点からいじめ問題について考えられる工夫がなされている。

各学年の巻末の教材一覧表には、各教材と他教科等や現代的な課題との関連が記載されており、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮されている。

■教育出版「小学道徳 はばたこう明日へ」

各教材の冒頭には、内容項目や主題が示されるとともに、導入の発問が投げかけられており、児童は見通しをもって学習に取り組むことができる。また、各教材末の「考えよう」、「深めよう」、「つなげよう」で提示される発問は、道徳性が養えるよう、道徳的価値に迫るものとなっており、工夫されている。さらに、各学年巻末には、1年間の学習を振り返って感じたことや考えたこと、生活に生かしたいことを書くページが設けられるなど、工夫されている。

各学年巻末には、礼儀やコミュニケーション能力、SDGsなど、多様な資料が掲載されており、学習を生活に生かし、道徳的価値を多面的・多角的に学べるよう工夫されている。また、低学年から、モラルスキルトレーニングや役割演技などが複数設定されており、言語活動や体験的な学習について工夫されているが、児童によっては、教材文と現実を同時に行き来しながら演じることが難しい教材もある。

挿絵は豊富である一方、表情が読み取りにくいものも多く、児童の思考の手立てとなりにくい。

3年生以上の巻頭には「道徳の学習をもっと広げよう」として、QRコードの活用だけでなく、ICT機器を使って考えをまとめたり、話し合い活動や発表をしたりする場面をイラストとともに具体的に示しており、ICT機器の活用を促す工夫がなされている。

現代的な課題である、いじめ問題や情報モラル等について、学年ごとに重点テーマを設定し、教材とコラムをユニットの形で構成するなど、手厚く指導できるよう工夫されている。また、SDGsのジェンダー平等に関する教材や性別役割分担に触れた教材が用意されており、児童が多様な考えをもつことができるよう工夫されている。

各学年巻末の教材一覧表には、各教材と他教科等や現代的な課題との関連が記載されており、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮されている。

■光村図書出版「道徳 きみがいちばんひかるとき」

各学年巻頭に、「道徳が始まるよ」として、内容項目が発達段階に応じたイラストや言葉で表現・解説されており、道徳性を養うために必要な視点が理解できるようになっているとともに、各教材の冒頭には、内容項目や主題、導入の問いが掲載され、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫され優れている。また、各学年巻末に、「学びの記録」として、振り返りや自己評価を行うページが設けられているが、1～4年生はシールを貼り付けて記録する形式となっており、取り組みやすい一方で、言語活動が伴いにくく、振り返りの工夫としては弱い。

2年生以上の巻頭には、「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」として、話し合い活動の進め方を具体的に示しており、言語活動の充実が図られるよう工夫されている。また、役割演技やソーシャルスキルトレーニングが適宜設けられており、体験をもとに道徳的価値について考えが深められるよう工夫されている。さらに、各教材の「考えよう・話し合おう」では、中心発問や多様な活動が例示され、教材の学習のねらいと対照させることで多面的・多角的な考えを引き出せるようになり、優れている。

他教科等やSDGsに関連する教材では、そのことを示すマークが各教材末の「つなげよう」に付されたり、関連書籍が紹介されたりするとともに、キャラクターの吹き出しで、学習した道徳的価値を他教科等や生活につなげて考えることを促す提案が適宜なされている。また、絵本作家の作品が全学年に掲載されており、多様な見方・考え方が引き出せるよう工夫され優れている。

現代的な課題である、いじめ問題や情報モラル等を重点的な課題として、教材とコラムをユニットの形で構成するなど、多様に考えを深められるよう工夫されている。いじめ問題については発達段階に応じて学習する時期が設定されるとともに、間接的教材によって様々な内容項目の視点から1年を通して、いじめを許さない心情と態度を育めるよう工夫されている。

各学年巻末の教材一覧表には、各教材と他教科等や現代的な課題との関連が記載されており、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮されている。

■日本文教出版「小学道徳 生きる力」

各教材の冒頭には、内容項目が発達段階に応じた分かりやすい言葉で示されるとともに、導入の

問いやリード文等が掲載され、児童が教材の内容を捉えやすいよう工夫され優れている。また、各教材末の「考えてみよう」、「見つめよう・生かそう」で提示される発問は、道徳的価値に迫り、自己の生き方について考えを深め、学習をこれからの生活に生かせるよう工夫されている。さらに、自己を振り返り、考えを深め、記録しておくことができるよう、別冊「道徳ノート」が用意されており、優れている。

各学年巻頭に、「道徳の学び方」として、問題解決的な学習の流れと、話し合い活動や体験活動、言語活動が写真と共に紹介されており、主体的・対話的な学習が促されているとともに、別冊「道徳ノート」によって、書く活動の充実が図られており、よく工夫されている。また、全学年に複数設けられている「ぐっと深める」では、問題解決的な学習や深い学びの実現の手立てとして、他者との対話や役割演技など体験的な学習を豊富に提示されているなど、優れている。

各学年巻末の「見つけた！ここにも道徳」やコラム「心のベンチ」では、日常生活の中で道徳的価値に気付くヒントが掲載されていたり、他教科との関連が図られていたりしており、多様な見方・考え方ができるようよく工夫されている。また、個別最適な学びと協働的な学びの展開が促されるよう、ＩＣＴ機器を活用して自分自身の考えをもち、他者と対話しながら協働したり、発表したりする学習の流れが写真と共に分かりやすく示されるなど、優れている。

現代的な課題に関連する教材の前後には、豊富な資料や学習活動を提示したコラム「心のベンチ」を設定し、主題や内容項目等について、より多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。特にいじめ問題については、様々な切り口から考えられるようにするとともに、直接的教材、間接的教材、コラムで構成された、ユニットの形で全学年に設定されており、優れている。

補充教材が複数あり、選択肢が多く、学校や地域の実態に合わせて、系統性・発展性をもたせた活用ができるよう工夫されている。

■光文書院「小学道徳 ゆたかな心」

各教材の冒頭では、内容項目が示されるとともに、主題も分かりやすく表現されていたり、導入・展開・発展の発問が成長する鳥のアイコンで示されていたりするなど、児童が学習のねらいを意識しながら考えを深められるよう工夫されている。また、各学年巻末に、「学びの足あと」として、学習の記録に加え、最初に「なりたい自分」の有する気持ちや考えを記しておき、学期末や学年末にこれまでの学習を振り返り、自分の成長が実感できるよう工夫されている。

各教材末の「まとめよう」、「広げよう」では、関連書籍を読む活動やノートにまとめる活動が提案されており、多面的・多角的に学べるよう工夫されている。

各学年巻頭に、「道徳の時間はこんな時間です」として、問題解決的な学習の流れと共に、思考ツールを用いた考えの深め方が提示されているが、具体的に教材の中に示されていないため、活用しにくく、また体験的な学習等も少ない。

各教材とＳＤＧｓの１７の目標とを繋げて考えることができるコラムを全学年に設けており、多様な見方・考え方ができるよう工夫されている。

ＩＣＴ機器を使用した話し合い活動や調べ学習の例示等がなく、ＩＣＴ機器の活用という点で弱

い。

現代的な課題である、いじめ問題やいのちの尊重を全学年共通の重点主題とし、該当する教材にはコラムが配置され、児童が自分自身の生活と結びつけて考えられるよう工夫されている。また、情報モラルを題材にした教材やコラムが全学年に配置され、1年生からスマートフォンやタブレットの使い方や留意事項について取り上げており、工夫されている。

補充教材が複数あり、選択肢が多く、学校や地域の実態に合わせて、系統性・発展性をもたせた活用ができるよう工夫されている。

各学年巻末には、内容項目、教材名、主題名、現代的な課題との関係、他教科等との関係が一覧で示されており、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮されているが、他教科等との関りを意識した教材は少なく、また、幼保小連携や小中連携が感じられる教材や工夫はみられない。

■Gakken「みんなの道徳」

各教材の冒頭では、教材中のポイントとなる言葉等が記され、教材への興味関心が高まるよう工夫されているが、主題が掲載されておらず、主題に捉われない授業が意図されている一方、児童が考え、議論するための軸がぶれて、道徳的価値を捉えにくくなっている。各学年巻末に「つなげようひろげよう」として、1年間の学びを振り返り、成長を実感するとともに、次年度への自分へのメッセージを書き込めるページが設けられている。

各学年巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の「やってみよう」では、話し合い活動や役割演技等の体験的な学習が例示されており、多様な指導方法に配慮されているが、体験的な学習が提示された教材数は少ない。各学年に適宜配置されている「心のパスポート」では、他教科等や身近な生活、現代的な課題につながる視点が提示されており、広い視野から多面的・多角的に学べるようになっており、工夫されている。

各教材名の下には、関連する現代的な課題を表すマークが付されており、学習したことを身近な課題とつなげ、多様な見方・考え方ができるよう工夫されている。

各学年巻頭にパソコン等を使用する際の注意事項が掲載されているが、ICT機器を使用した話し合い活動や調べ学習の例示等はなく、ICT機器の活用という点で弱い。

いのちを最重点テーマとしており、複数の内容項目の視点から生命の尊厳について考えられるよう、複数教材をユニットの形で構成し、多面的・多角的に考えを深められるよう工夫されている。また、現代的な課題については、各学年巻頭の「つながる私広がる私」で自分自身とのつながりを図れるよう工夫されている。

命、多様性、キャリアを題材にした教材の前のページには、関連する言葉や写真、イラストが掲載されていたり、同じ題材の教材が2つ続けて掲載されていたりして、系統性・発展性が意識されており、学習を深められるよう工夫され優れている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

特別の教科 道徳

観点別・視点別評価

「◎」優れている 「○」標準的 「△」やや劣る

選定の観点		選定の視点	東京書籍	教育出版	光村図書	日文出版	光文書院	学研
1	発達段階に即した学習のねらい・目標や適切な振り返り活動の設定等、児童が道徳的な成長を実感でき、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を身に付けられるよう工夫・配慮がされていること。	1 適切なねらい(目標)の設定およびねらい(目標)に迫るための発問等の工夫	○	○	◎	◎	○	○
		2 自分との関わりにおいて、自己を見つめ、考えを深めることができるような振り返り活動やまとめの設定(これまでの体験等を通じて道徳的な成長を促し実感するための工夫)	○	○	○	◎	○	○
2	道徳的価値について広い視野から多面的・多角的に考えらえるよう、児童が主体的・対話的に学習に取り組むための言語活動や問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等の多様な指導方法が工夫され、「考え、議論する道徳」の学習活動が展開しやすいこと。	1 主体的・対話的に学習に取り組むための言語活動の工夫	○	△	○	◎	○	○
		2 問題解決的な学習、体験的な学習等の多様な指導方法の工夫	○	○	○	◎	△	△
		3 道徳的価値を広い視野から多面的・多角的に学べるための工夫	◎	○	◎	○	○	○
3	教材に応じて、読み物資料に加え、多様で適切な挿絵や写真等が豊富に用いられるとともに、児童が特定の見方や考え方に偏ることなく、多様な見方や考え方ができるよう工夫・配慮されていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。	1 多様で適切な挿絵や写真、イラスト等の充実	○	△	○	○	○	○
		2 多様な見方・考え方ができるよう工夫・配慮	○	○	◎	◎	○	○
		3 ICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫	○	○	○	◎	△	○
4	生命の尊厳、社会参画、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題等を題材とし、児童が物事に対して多様な考えをもつことができたり、感動を覚えたりするよう工夫・配慮されていること。	1 現代的な課題(生命の尊厳、いじめの防止、社会参画、自然(防災を含む)、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報モラル等)の取扱い	○	○	○	◎	○	○
		2 現代的な課題に対して多様な考えをもつことができたり、感動を覚えたりするよう工夫	○	○	○	○	○	○
5	教材の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から、他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また、他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。	1 教材の系統性・発展性の工夫	○	○	○	○	○	◎
		2 他教科等や様々な教育課題との関連	○	○	○	○	○	○
		3 他校種との円滑な接続を意識した教材や指導方法の工夫(小中連携)	○	○	○	○	△	○
		4 家庭や地域との連携の工夫	○	○	○	○	○	○
6	基本的人権の尊重の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、よりよく生きる喜びや勇気を与えられるよう工夫・配慮されていること。	1 生命の尊さ、人間尊重の精神を培うための工夫	○	○	○	○	○	○
		2 法やきまりの意義、人間関係の理解や課題について深く考えられる工夫	○	○	○	○	○	○
		3 悩みや葛藤等の心の揺れから、よりよく生きる喜びや勇気について深く考えられる工夫	○	○	○	○	○	○
7	表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文章や挿絵、写真等の適切さ、正確性、使いやすさの工夫	○	○	○	○	○	○
		2 ユニバーサルデザインの視点	○	○	○	○	○	○
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○	○	○	○
		4 用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	○	○	○	○

【特別の教科 道徳】観点別資料

【選定の観点1】

発達段階に即した学習のねらい・目標や適切な振り返り活動の設定等、児童が道徳的な成長を実感でき、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を身に付けられるよう工夫・配慮がされていること。

発行者名					
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書	116 日本文教出版	208 光文書院	224 Gakken
<p>○各学年巻頭の「なにを学ぶのかな?」では、教材を4つの内容項目との関連を意識しながらバランスよく学習に取り組めるよう、教材が内容項目ごとのまとまりで記載されているとともに、各教材では、内容項目が発達段階に応じた分かりやすい言葉で示されている。各教材末の「考えよう」の振り返りの発問と中心発問は、児童の問題意識を喚起し、主体的に自己を見つめ、考えを深める学びを促しており、工夫されている。</p> <p>○各学年巻末に「学習の記録」として、感じたことや考えたこと、生活に生かしたいことを書くページが設けられており、学習を振り返ることができるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年巻頭の「道徳で学習すること」では、教材が内容項目ごとに記載されているとともに、各教材の冒頭では、内容項目や主題が明示されていたり、キャラクターが導入の発問を投げかけたりしており、見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、各教材末の「考えよう」「深めよう」「つなげよう」では、道徳的価値に迫るための中心発問と中心発問を深めるための基本発問が設定されており、道徳性が養えるよう工夫されている。</p> <p>○1年間の学習を振り返って感じたことや考えたこと、生活に生かしたいことを書くページが各学年巻末に設けられており、学習を振り返ることができるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年巻頭の「道徳が始まるよ」では、内容項目が発達段階に応じたイラストや言葉で表現・解説されており、道徳性を養うために必要な視点が理解できるよう工夫されている。また、各教材の冒頭では、関連する内容項目が明示されるとともに主題や導入の問いがキャラクターの吹き出しで示されており、見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されており優れている。各教材末の「考えよう・話し合おう」「つなげよう」に設定されている中心発問や振り返りの発問が、自分自身の問題として考えたり、話し合ったりする活動を促す手立てとなっている。</p> <p>○1年間の成長過程を踏まえ、振り返りや自己評価が行えるよう、各学年巻末には「学びの記録」が設定されている。1～4年生は「学びの記録シール」を貼り付けて記録する形式で取り組みやすいが、一方、言語活動が伴いにくく振り返りの工夫としては弱い。</p>	<p>○各学年巻頭の「道徳のとびら」では、内容項目が包括的に示されており、見通しをもって学習に取り組むことができる。各教材の冒頭では、内容項目が発達段階に応じた分かりやすい言葉で示されているとともに、導入の問いや内容を要約したリード文、登場人物のイラストが掲載されるなど、児童が教材の内容を捉えやすいよう工夫されており、また、各教材末の「考えてみよう」では、道徳的価値に迫るための中心発問が設定されており、優れている。</p> <p>○各教材末の「見つめよう・生かそう」では、学習したことを生活に生かすことができるよう、自己の生き方について考えを深めることにつながる発問が提示されており、また、別冊「道徳ノート」では、さらに自己を振り返り、考えを深め、また、記録しておくことができるよう工夫されており優れている。</p>	<p>○各学年巻頭の「ゆたかな心」では、内容項目が発達段階に応じて包括的に示されており、見通しをもって学習に取り組むことができる。また、各教材の冒頭では、内容項目が明示されるとともに主題も分かりやすく表現されていたり、導入・展開・発展の発問が成長する鳥のアイコンで示されていたりするなど、児童が学習のねらいを意識しながら考えを深められるよう工夫されている。</p> <p>○各教材末の「かんがえよう」では、道徳的価値に迫るための中心発問が設定されているとともに、「まとめよう」「ひろげよう」という、発展的な振り返りや活動が提示されている。また、各学年巻末の「学びの足あと」では、授業ごとの学習の記録に加え、最初に「なりたい自分」の有する気持ちや考えを記しておき、学期末や学年末にこれまでの学習を振り返ることで、自分の成長が実感できるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年巻頭では、教材が内容項目ごとに記載されており、見通しをもって学習に取り組むことができる。各教材の冒頭では、教材中のポイントとなる言葉等が記され、教材への興味関心が高まるよう工夫されている。また、主題に捉われない授業を意図し、あえて主題名が掲載されていないが、主題がないことで児童が考え、議論するための軸がぶれて、道徳的価値を捉えにくくなっている。</p> <p>○各教材の「考えよう」で提示される発問が、学んだことを生活に生かすよう促したり、将来を考えさせたりするものが多く、道徳的な成長を促し、実感できるよう工夫されている。また、各学年巻末の「つなげようひろげよう」では、1年間の学びを振り返り、自らの成長を実感するとともに、次年度への自分へのメッセージが書き込めるようになっており工夫されている。</p>

【選定の観点2】

道徳的価値について広い視野から多面的・多角的に考えられるよう、児童が主体的・対話的に学習に取り組むための言語活動や問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等の多様な指導方法が工夫され、「考え、議論する道徳」の学習活動が展開しやすいこと。

発行者名					
2 東京書籍	1 7 教育出版	3 8 光村図書	1 1 6 日本文教出版	2 0 8 光文書院	2 2 4 Gakken
<p>○2年生以上の巻頭の「ちょっと話し合ってみよう！」では、対話の中で活用できる文言例が掲載されるとともに、各教材の「つながる広がる」では、話し合い活動が提示されているなど、言語活動を促す工夫がされている。</p> <p>○各学年巻頭の「どんな学びをするのかな？」や全学年で適宜設定されている「問題を見つけて考えよう」では、「気づく」「考える」「広げる・深める」の3段階の学習の流れが示されており、問題解決的な学習が展開しやすいよう、工夫されている。</p> <p>○各学年巻末の「考えるためのツール」では、自分の考えを可視化し、話し合い活動を促すツールが複数例示されており、また、4年生以上に付属している、切り取って何度も活用できる心情円は道徳的価値について多面的・多角的に考える手立てとなっており優れている。</p>	<p>○低学年から、モラルスキルトレーニングや役割演技などが複数設定されており、主体的・対話的に言語活動を進め、体験を通して道徳的価値について考えを深めることができるよう工夫されているが、児童によっては、教材文と現実を同時に行き来しながら演じることが難しい教材もある。</p> <p>○各教材末の「考えよう」「深めよう」「つなげよう」「問題を解決しよう」などの発問例では、問題解決的な学習を促すため、複数の発問が設けられており、段階を踏んで多様な考えを引き出すことができるよう工夫されている。</p> <p>○各学年巻末には、礼儀やコミュニケーション能力、SDGsなど、多様な資料が掲載されており、学習を生活に生かし、道徳的価値を多面的・多角的に学べるよう工夫されている。</p>	<p>○2年生以上の巻頭に「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」として、話し合い活動の進め方を具体的に示しており、言語活動の充実が図られるよう工夫されている。</p> <p>○中高学年では、巻末に掲載されているだけでなく、教材や発達段階に応じて、思考ツールの活用が提案されており、考えを広げたり整理したりしながら、主体的・対話的な学習に取り組めるよう工夫されている。さらに、各学年の最初の教材に「道徳の学び方」として、「考えたいことに気づく」「よりよい生き方について考える」「学んだことをつなげる」の3段階の学習の流れが示されており、問題解決的な学習が展開できるよう工夫されている。</p> <p>○役割演技が有効な教材には「演じて考えよう」が適宜設けられていたり、全学年で「心を通わそう」というソーシャルスキルトレーニングが掲載されていたりしており、体験をもとに道徳的価値について考えが深められるよう工夫されている。また、各教材の「考えよう・話し合おう」では、中心発問や多様な活動が例示され、教材の学習のねらいと対照させることで多面的・多角的な考えを引き出せるようになっており優れている。</p>	<p>○各学年巻頭の「道徳の学び方」の「どんな方法があるかな。」では、話し合い活動や体験活動、言語活動が写真と共に紹介されており、主体的・対話的な学習が展開できるよう工夫されている。また、別冊「道徳ノート」は、全体を通して書く活動が充実しているとともに、児童の実態に応じて自由に発問が設定できる様式となっており、児童が主体的に取り組めるよう工夫され優れている。</p> <p>○各学年巻頭の「道徳の学び方」では、各題材末の発問ともリンクした「気づく」「考える・深める」「見つめる・生かす」という問題解決的な学習の流れが示されている。また、他者との対話や役割演技など体験的な学習が豊富に提示された「ぐつと深める」が全学年に複数設けられており、問題解決的な学習や深い学びの実現の手立てとなっており優れている。</p> <p>○各学年巻末の「見つけた！ここにも道徳」では、学習したことを日常生活やSDGsと関連付けることで、道徳的価値を広い視野から多面的・多角的に捉えるとともに、自己を見つめ、考えを深められるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年巻頭に話し合いの仕方やノートのまとめ方が提示されており、言語活動の充実が図られるよう工夫されている。</p> <p>○各学年巻頭の「道徳の時間はこんな時間です」では、「問いを見つけよう」「考えよう」「まとめよう・ふりかえろう」という問題解決的な学習の流れが示されるとともに、思考ツールを用いた考えの深め方が提示されているが、具体的に教材の中に示されていないため活用しにくく、また、体験的な学習等も少ない。</p> <p>○各教材末の「まとめよう」「広げよう」では、関連書籍を読む活動やノートにまとめる活動が提案されたり、各学年巻末の「ことばのたからもの」では相田みつをの書が掲載されたりするなど、道徳的価値を広い視野から多面的・多角的に学べるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年巻頭の「道徳の学習が始まるよ」では、内容項目が自分を見つめる視点として分かりやすく解説されたり、問題解決的な学習の流れが示されたりしており、主体的・対話的な学習の展開を図る工夫がされている。</p> <p>○「深めよう」では、「つかもう」「探そう」「見つめよう」の3段階で考えを深める流れが示されたり、学習の途中で考えを書き込む欄が設けられた教材が配置されたりするなど主体的な学習に配慮されている。また、各学年巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の「やってみよう」では、話し合い活動や役割演技等の体験的な学習が例示されており、多様な指導方法に配慮されているが、体験的な学習が提示された教材数は少ない。</p> <p>○物語型の従来の読み物教材だけでなく、写真や啓発ポスターを中心とした教材や、泣き顔の大きなイラストとそれを取り巻く色々な表情のイラストや台詞から様々な意見に触れさせる教材などが配置されたり、「心のパスポート」では、他教科等や現代的な課題につながる視点が提示されたりしており、広い視野から多面的・多角的に学べるよう工夫されている。</p>

【選定の観点3】

教材に応じて、読み物資料に加え、多様で適切な挿絵や写真等が豊富に用いられるとともに、児童が特定の見方や考え方に偏ることなく、多様な見方や考え方ができるよう工夫・配慮されていること。また、ICT 機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名					
2 東京書籍	1 7 教育出版	3 8 光村図書	1 1 6 日本文教出版	2 0 8 光文書院	2 2 4 Gakken
<p>○ダイナミックな風景写真など、大きな挿絵や写真が豊富で、教材に関する知識を広げたり、考えを深めたりする手立てとなるよう工夫されている。</p> <p>○コラム「つながる広がる」では、他教科等や普通の生活と学習したことを関連付けて考えを深めているように具体的なイラストや資料が掲載されており、多様な見方・考え方ができるよう工夫されている。</p> <p>○各学年巻頭の「どんな学びをするのかな？」では、コンピュータを学習に活用することに触れられていたり、全学年で適宜設定されている「問題を見つけて考えよう」では、ICT機器を使用する児童のイラストが掲載されていたりしており、ICT機器を活用した活動がイメージしやすい。</p>	<p>○挿絵は豊富ではあるが、表情が読み取りにくいものも多く、児童の思考の手立てとなりにくい。</p> <p>○各学年巻末の資料には、礼儀やコミュニケーション能力を高めるための実践的な具体的な方法や、教材に関連する資料がイラストや写真で掲載されており、多様な見方・考え方ができるよう工夫されている。</p> <p>○3年生以上の巻頭「道徳の学習をもっと広げよう」では、興味・関心を深められるQRコードの活用だけでなく、ICT機器を使って考えをまとめたり、話し合い活動や発表をしたりする場面をイラストとともに具体的に示しており、ICT機器の活用を促す工夫がなされている。</p>	<p>○教材に応じて、写真が大きく掲載されており、教材理解がしやすく、また、内容項目がシンプルなイラストと言葉で分かりやすく表現されており工夫されている。</p> <p>○他教科等やSDG sに関連する教材では、そのことを示すマークが各教材末の「つなげよう」に付されたり、関連書籍が紹介されたりするとともに、キャラクターの吹き出しで、学習した道徳的価値を他教科等や生活につなげて考えることを促す提案が適宜なされている。また、「うそ」「友だち」「自分」等をテーマにした、絵本作家の作品が全学年に掲載されており、多様な見方・考え方が引き出せるよう工夫されており優れている。</p> <p>○インターネットが調べ学習に活用できることが例示されており、ICT機器の活用促進に配慮されている。</p>	<p>○大きな挿絵や写真が豊富で、考えを深める手立てとなっている。特に、写真はダイナミックに掲載されており、読み取りやすいよう工夫されている。</p> <p>○各学年巻末の「見つけた！ここにも道徳」では、日常生活の中で道徳的価値に気付くヒントとなる写真が掲載されている。また、コラム「心のベンチ」では、様々な資料や活動が提示されるとともに、他教科等との関連も図られており、道徳的価値について多様な見方・考え方ができるよう工夫されており優れている。</p> <p>○「ぐっと深める」では、ICT機器を活用して自分自身の考えをもち、他者と対話しながら協働したり、発表したりする学習の流れが写真と共に分かりやすく示されるなど、個別最適な学びと協働的な学びの展開が促されるよう工夫され優れている。</p>	<p>○大きな挿絵や写真が豊富で、教材に関する知識を広げたり考えを深めたりする手立てとなっている。一方、1年生の最初の教材から文字が多く使用され、発達段階を踏まえる学習が難しい面がある。</p> <p>○全学年に設置されているコラム「みんなでつくる「わたしたちの未来」」では、各教材のイラストと該当するSDG sの目標番号が掲載されており、学んだことをSDG sの17の目標と繋げて考えることができ、多様な見方・考え方ができるよう工夫されている。</p> <p>○ICT機器を使用した話し合い活動や調べ学習の例示等がなく、ICT機器の活用という点で弱い。</p>	<p>○大きな挿絵や写真が豊富で、見開きページを使用したダイナミックな写真も掲載されるなど、教材に関する知識を広げたり考えを深めたりする手立てとなっている。一方、1年生の最初の教材から文字が多く使用され、発達段階を踏まえると学習が難しい面がある。</p> <p>○各教材名の下には、関連する現代的な課題を表すマークが付されており、学習したことを身近な課題とつなげ、多様な見方・考え方ができるよう工夫されている。</p> <p>○各学年巻頭にパソコン等を使用する際の注意事項が掲載されているが、ICT機器を使用した話し合い活動や調べ学習の例示等はなく、ICT機器の活用という点で弱い。</p>

【選定の観点4】

生命の尊厳、社会参画、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題等を題材とし、児童が物事に対して多様な考えをもつことができたり、感動を覚えたりするよう工夫・配慮されていること。

発行者名					
2 東京書籍	1 7 教育出版	3 8 光村図書	1 1 6 日本文教出版	2 0 8 光文書院	2 2 4 Gakken
<p>○現代的な課題である、「いじめ」「いのち」「じぶん」「情報モラル」「防災・安全」の5つを重点的な課題として全学年で扱い、児童の視野を広げるコラムも充実している。特にいじめ問題に重点を置いており、直接的教材と間接的教材を組み合わせたユニット形式を取り入れたり、コラム「つながる広がる」では、子どもの権利条約やいじめ防止対策推進法を紹介したりすることで多様な視点から考えられる工夫がなされている。</p> <p>○発達段階に応じて、次代を切り拓いて生きている人物を取り上げた教材が配置され、自分の生き方に思いが馳せられるよう工夫されている。また、SDG sについて、コラム「つながる広がる」で特集するとともに、エシカル消費等、身近な事例をあげ、児童が自分にできることを知り、実践できるよう工夫されている。</p>	<p>○現代的な課題である、いじめ問題、情報モラル、防災・安全教育、キャリア教育等について、学年ごとに重点テーマを設定し、教材とコラムをユニットの形で構成することで、手厚く指導できるようになっており、多様に考えを深められるよう工夫されている。また、SDG sに関して、児童が課題を発見し、考え、持続可能な社会の形成に関わっていくことができるよう、関連する教材が掲載されているなど工夫がなされている。</p> <p>○自分の将来について考え始める高学年の発達段階に合わせて、偉人や現在活躍する人物を扱った教材が掲載されている。また、SDG sのジェンダー平等に関する教材や性別役割分担に触れた教材が掲載されており、現代的な課題に対して児童が多様な考えをもつことができるよう工夫されている。</p>	<p>○現代的な課題である、「いじめ問題」「情報モラル」「環境」「共生」の4つを重点的な課題として位置づけ、教材とコラムをユニットの形で構成することで、多様に考えを深められるよう工夫されている。また、いじめ問題については、発達段階に応じて学習する時期が設定されるとともに、間接的教材によって様々な内容項目の視点から1年を通して、いじめを許さない心情と態度を育めるよう工夫されている。</p> <p>○おせち料理や伝統工芸、地域の祭りなどが写真とともに取り上げられ、身近なことから伝統文化について考えられるよう工夫されている。また、偉人の生き方や防災など、発達段階に応じた様々な題材を通してSDG sについて触れ、多様な考えをもつことができるよう工夫されている。</p>	<p>○現代的な課題である、いじめ問題、情報モラル、防災、安全教育、キャリア教育、SDG s等に関連する教材の前後にコラム「心のベンチ」を設定し、教材の主題や内容項目等について、より多面的・多角的に考えることができるよう豊富な資料や学習活動を提示しており工夫されている。特にいじめ問題については、多文化共生、自己肯定感の視点からも未然防止につながる内容を扱い、様々な切り口から考えられるようにするとともに、直接的教材、間接的教材、コラムで構成された、いじめ防止ユニット「人との関わり」を年3回学習する想定で全学年に設定しており優れている。</p> <p>○情報モラルについては、発達段階に応じて全学年に掲載され、著作権、個人情報の重要性やルール等、情報との向き合い方を幅広く学び、考えられるよう工夫されている。また、環境保全活動への参加を取り上げた教材を配置するなど、現代的な課題に対して児童が自分にできることを知り、実践できるよう工夫されている。</p>	<p>○現代的な課題である、いじめ問題、いのちの尊重を全学年共通の重点主題とするとともに、発達段階に応じて学年独自の重点主題も設定している。重点主題に関する教材にはコラムが配置され、児童が自分自身の生活と結びつけて考えられるよう工夫されている。</p> <p>○情報モラルを題材にした教材やコラムが全学年に配置されており、6年間を通して学習ができるよう配慮されている。特に1年生からスマートフォンやタブレットの使い方や留意事項について取り上げられているのも特徴的であり工夫されている。また、全学年に配置されているコラム「へこんでも立ち直る」では、現代の急速な社会変化の中でも自己肯定感を高められるよう、自分の良さや持っている力に気付かせる活動が発達段階に応じて提示されている。</p>	<p>○最重要テーマを「いのち」とし、複数の内容項目の視点から生命の尊厳について考えられるよう、複数教材を「いのちのユニット」として構成しており、多面的・多角的に考えを深められるよう工夫されている。現代的な課題である、情報モラル、防災・安全教育、キャリア教育、SDG s等については、各学年巻頭の「つながる私広がる私」で自分自身とのつながりを図れるよう工夫されている。</p> <p>○情報モラルについては、全学年に特設ページが配置されており、6年間を通して学習ができるよう配慮されている。また、先人や今活躍する人々を題材にした、児童の興味を引き付ける人物教材は、全学年で約 40 教材が掲載されており、様々な人の生き方を学習することで児童が多様な考えをもつことができるよう工夫されている。</p>

【選定の観点5】

教材の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から、他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また、他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。

発行者名					
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書	116 日本文教出版	208 光文書院	224 Gakken
<p>○同じ内容項目で複数の教材があるものは、時期をおいて配列されており、教材の系統性・発展性が意識されている。</p> <p>○各学年巻末の教材一覧表には、各教材と他教科等や現代的な課題との関連が記載されており、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮されている。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動との関連を図った教材が配置され、工夫されている。</p> <p>○1年生の始めは幼保小連携を意識し、具体的な学習活動を取り入れた教材や、絵や写真を中心とした教材で構成され、児童が道徳学習に入りやすいよう工夫されている。また、6年生の最後には、夢に関する教材が配置されていたり、自己の生き方について考えることを促す詩が掲載されていたりするなど、中学校への連携が意識されている。</p> <p>○情報モラルの教材が長期休業期間前に配置されるとともに、情報モラルに関するコラム「つながる広がる」には、保護者に向けたメッセージが掲載されており、家庭や地域社会と連携しながら、情報活用能力を身に付けられる構成となっているなど工夫されている。</p>	<p>○同じ内容項目で複数の教材があるものは、時期をおいて配列されており、教材の系統性・発展性が意識されている。</p> <p>○各学年巻末の教材一覧表には、各教材と他教科等や現代的な課題との関連が記載されており、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮されている。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動との関連を図った教材が配置され、工夫されている。3年生以上には「まなびリンク」として学習内容に関連するウェブサイトも紹介されるなど、多様な学習活動の展開に有効な工夫がされている。</p> <p>○幼保小連携を意識し、1年生の最初2つの教材は、ほぼ挿絵だけの教材で構成し児童が道徳学習に入りやすいよう配慮されている。また、6年生では卒業に向けて、支えてくれた人々に感謝する教材が配置されているが、中学校生活への接続を意識した教材等は少ない。</p> <p>○各学年で家族や地域との関わりについて考える教材を複数掲載しており、家庭や地域社会の一員としての自覚を深めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○同じ内容項目で複数の教材があるものは、時期をおいて配列されており、教材の系統性・発展性が意識されている。</p> <p>○各学年巻末の教材一覧表には、各教材と他教科等や現代的な課題との関連が記載されており、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮されている。また、発達段階に応じながら6年間を通してSDGsの17の目標全てに触れられており、様々な教育課題との関連が図れるよう工夫されている。</p> <p>○幼保小連携を意識し、1年生の最初の5つの教材を入門期として位置付け、文字を少なくし、学校・家庭・地域を描いた絵を見て、道徳的価値について考えられるよう配慮されている。また、6年生の最後の教材では夢を題材にしており、自分の夢を書く欄が設けられているなど、中学校生活について考えられるよう工夫されている。</p> <p>○長期休業期間前には調べたり、家庭で話題にしやすい内容のコラムが設定されているとともに、裏表紙には保護者に向けたメッセージが掲載されているなど、家庭との連携が図れるよう工夫されている。</p>	<p>○同じ内容項目で複数の教材があるものは、時期をおいて配列されている。また、補充教材が複数あり、選択肢が多く、学校や地域の実態に合わせて、系統性・発展性をもたせた活用ができ、工夫されている。</p> <p>○コラム「心のベンチ」では、他教科等と関連した学習に配慮されており、また、各学年巻末の教材一覧表では他教科や様々な教育課題との関連がまとめられており、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮されている。</p> <p>○幼保小連携を意識し、1年生の最初の教材は、ほぼ挿絵だけの構成となっており、また、別冊「道徳ノート」の1年生1学期に使用するページは、文字の記入ではなく○印を書いたり、色を塗ったりするなど児童への負担軽減が図られており工夫されている。</p> <p>○各学年巻末や別冊「道徳ノート」に、保護者に向けたメッセージを掲載し、学習を家庭と共有することができるようになっており工夫されている。</p>	<p>○いじめ問題と生命の尊重を重点主題とし、直接的教材と間接的教材を発達段階に応じて配置することで、理解を深められるようになっている。また、補充教材が複数あり、選択肢が多く、学校や地域の実態に合わせて、系統性・発展性をもたせた活用ができ、工夫されている。</p> <p>○各学年巻末に内容項目、教材名、主題名、現代的な課題との関係、他教科等との関係が一覧で示されており、カリキュラム・マネジメントの視点にも配慮されているが、他教科等との関わりを意識した教材は少ない。</p> <p>○未来の自分を考える教材等はあるが、幼保小連携や小中連携が感じられる教材や工夫はみられない。</p> <p>○家庭との連携がとりやすい教材や地域社会の一員として、他者と連携、協力しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担う力を養うことを目指した教材を多く掲載しており工夫されている。</p>	<p>○同じ内容項目で複数の教材があるものは、時期をおいて配列されている。また、命、多様性、キャリアを題材にした教材の前のページには、関連する言葉や写真、イラストが掲載されていたり、同じ題材の教材が2つ続けて掲載されていたりして、系統性・発展性が意識されており、学習を深められるよう工夫され優れている。</p> <p>○他教科等との関連が図られた教材が掲載されているが、どの教科と関連付けられるかは明示されておらず、分かりにくい。</p> <p>○各学年巻末の「つなげよう広げよう」では次年度（中学校）に向けて自分へのメッセージを書く欄が設けられ、中学校への接続を意識させる工夫がされている。</p> <p>○家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ることをねらった教材を多く掲載しており工夫されている。</p>

【選定の観点6】

基本的人権の尊重の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、よりよく生きる喜びや勇気を与えられるよう工夫・配慮されていること。

発行者名					
2 東京書籍	1 7 教育出版	3 8 光村図書	1 1 6 日本文教出版	2 0 8 光文書院	2 2 4 Gakken
<p>○「いじめ」「いのち」「じぶん」の3つのユニットは全学年同じ時期に配置し、特に「いのち」のユニットは子どもの自殺件数が増える9月に配置しており、生命の尊さについて多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。</p> <p>○外国人児童や障害のある児童など多様な人々が挿絵の中に描かれており、ダイバーシティを受け入れ、よりよい人間関係を築く態度を自然に養えるよう工夫されている。</p> <p>○先人の伝記をもとにした教材が児童の発達段階に応じて配置されていたり、国際的に活躍した人や自分らしい生き方をしている人々を扱った教材が豊富に掲載されており、悩みながらも自らの生き方を考える手がかりになるよう工夫されている。</p>	<p>○人権について考える教材やコラムが設けられており、人権意識をもち、人権を尊重する態度を養えるよう工夫されている。また、生命を尊ぶ態度を養うことができるように、各学年に「生命の尊さ」を扱った教材を豊富に掲載している。</p> <p>○教材文中の登場人物やキャラクター、写真、イラスト等も性別の偏りがないように配慮されている。また、障害の有無に関わらず、互いの個性やよさを認め合い、共に学び、生活していくための態度を養う教材が配置されており工夫されている。</p> <p>○歴史や文化、スポーツなど様々な分野で失敗や挫折を経験しながらも、乗り越え、功績を残した人物の生き方に触れる教材が掲載されており、自分の生き方を考え、よりよく生きる喜びや勇気について深く考えられるよう工夫されている。</p>	<p>○全学年において、生命の尊さを題材にした教材が各学期に配置されるとともに(年3回)、「感じよういのち」として、体験を通して生命に関する考えを深める活動が提示された特設ページが設けられており工夫されている。また、世界人権宣言を分かりやすい和訳で読む教材や人種差別を題材にした教材に加え、子どもの権利条約がコラムで紹介されるなどの工夫がなされている。</p> <p>○「共生」を重点的な課題として位置付けており、教材とコラムをユニットの形で構成することで、人権や多様性を意識し、児童が一人一人の違いを認め、互いを大切にしながら生きていくことについて理解し、深く考えられるよう工夫されている。</p> <p>○各分野で活躍する著名人を取り上げた教材では、希望をもってよりよく生きることの価値を感じ取ることができるよう工夫されている。</p>	<p>○多様性を尊重し、差別や偏見のない、公正で公平な社会の実現に積極的に努めようとする心情と態度を育て、人との関わりの大切さについて考えられるよういじめ問題を重点的に扱っており人権の尊重に配慮されている。</p> <p>○コラム「心のベンチ」では、いじめを法律などの理論と関連させて多面的に考えさせるとともに、自分や友達を守ることにつながることについて深く考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○よりよく生きる喜びや勇気について考える教材では、文学作品からスポーツ、芸術、身近な生活場面まで、多岐にわたる題材を取り上げるとともに、高学年の最終教材として配置されており工夫がなされている。また、いじめ問題を題材にした教材では、いじめを傍観者的に見る様々な立場を提示することで、これまでの自分を振り返り、葛藤等の心の揺れを受け止めながら、直接いじめ問題に向き合えるよう工夫されている。</p>	<p>○全学年で生命の尊重を重点課題としており、複数の教材を連続して配置したり、漫画教材を活用したりして、「命をかがやかせる」ことへの児童の意欲を引き出しながら、自他の生命を尊ぶ心を育成できるよう工夫されている。</p> <p>○障害の有無や文化の違いなどに捉われることなく、互いのよさを認め合いながら協働し、共に生きていこうとする態度を育めるようコラムを適宜配置している。また、中学年では、多様性を認めることを主題とした教材が配置されており、他者との違いを受け入れたり自身を認めたりすることについて考えられるよう工夫されている。</p> <p>○よりよく生きる喜びについて、実在の人物の生き様やその人物の喜びに自我関与しやすいようにインタビューなどが掲載されている。また、コラム「へこんでも立ち直る」では、学んだことを生かして、失敗や挫折を乗り越え、成長してきた自分のよいところを振り返ることができ、よりよく生きる喜びや勇気について深く考えられるよう工夫されている。</p>	<p>○生命の尊さを題材にした教材が全学年で配置されており(年3回)、生命の尊さや人権を重んじ、多様性を受け入れながら他者と共によりよく生きることを考えられるよう工夫されている。また、「心のパスポート」では自由と責任を題材としたり、子どもの権利条約を図示で分かりやすく示したりするなど工夫がなされている。</p> <p>○各学年巻末の「つなげよう広げよう」では、心に残った友達の言葉や家族に伝えたい言葉を書く欄が設けられ、人間関係の理解を深められるよう工夫されている。</p> <p>○自己肯定感や心の弱さと向き合うこと等について触れ、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等を深く考えることができる教材や特設ページが随所に配置されているなど工夫されている。</p>

【選定の観点7】

表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名					
2 東京書籍	17 教育出版	38 光村図書	116 日本文教出版	208 光文書院	224 Gakken
<p>○低学年は挿絵が大きく掲載されるところに、児童の発達の段階に応じた文字の大きさや行間に配慮されている。一部、文字と挿絵が重なっており、読みづらい部分がある。</p> <p>○色覚特性に適應するデザインやUDフォントが使用されているなど配慮されている。</p> <p>○装丁は適切で、造本は堅牢である。</p> <p>○軽量な再生紙や植物油インクが使用されており環境に配慮されている。</p>	<p>○児童の発達段階に応じた文字の大きさや行間、余白に配慮されている。</p> <p>○CUDに配慮するとともに、UDフォントが使用されている。</p> <p>○装丁は適切で、造本は堅牢である。</p> <p>○再生紙、植物油インキが使用されており環境に配慮されている。</p>	<p>○児童の発達段階に応じた文字の大きさや行間、漢字の使用に配慮されている。一部、挿絵と挿絵、文字と挿絵が重なる部分がある。</p> <p>○CUDに配慮するとともに、UDフォントや文字学習の見本として手書き文字に近い書体を独自に開発、使用するなど工夫されている。</p> <p>○装丁は適切で、造本は堅牢である。</p> <p>○環境に配慮した紙や植物油インクが使用されており配慮されている。</p>	<p>○横幅の広いAB判で、文字の大きさ、字間や行間も読みやすく配慮されている。</p> <p>○CUDに配慮するとともに、UDフォントが使用されている。</p> <p>○装丁は適切で、造本は堅牢である。別冊「道徳ノート」は、鉛筆で書きやすい紙質が使用されており工夫されている。</p> <p>○軽量な再生紙や植物性インクが使用されており環境に配慮されている。</p>	<p>○AB判で、児童の発達段階に応じた文字の大きさや行間に配慮されている。なじみのない言葉や分かりづらい言葉は脚注で説明が付されるなど配慮されている。一部、文字と挿絵が重なっており、読みづらい部分がある。</p> <p>○CUDに配慮するとともに、UDフォントが使用されている。</p> <p>○装丁は適切で、造本は堅牢である。</p> <p>○軽量な再生紙や植物油インクが使用されており環境に配慮されている。</p>	<p>○AB判で、児童の発達段階に応じた文字の大きさや行間に配慮されている。一部、文字と挿絵が重なっており、読みづらい部分がある。</p> <p>○CUDに配慮するとともに、UDが使用されている。</p> <p>○装丁は適切で、造本は堅牢である。</p> <p>○環境に配慮した紙や植物油インクが使用されており配慮されている。</p>

※UDフォント：ユニバーサル・デザインフォント、CUD：カラー・ユニバーサル・デザイン